

れき ぶん

となん歴史民だより vol.42

Morioka tonan history and folklore museum 平成 27 年 3 月 14 日 発行

発行 盛岡市都南歴史民俗資料館 盛岡市湯沢 1-1-38 Tel/Fax 019-638-7228



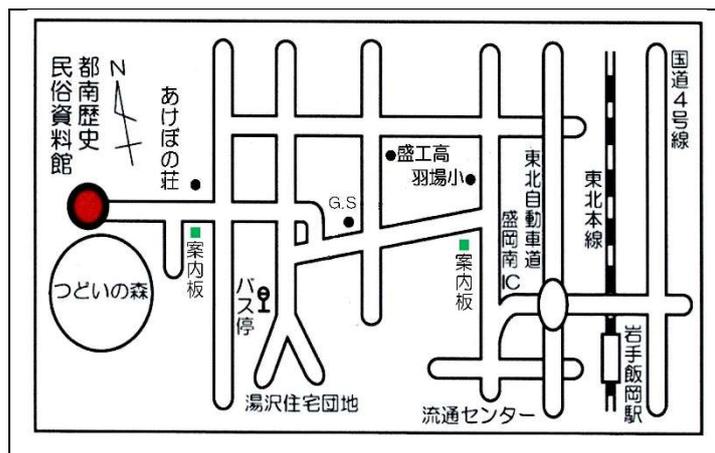
写真：花まんじゅうをつくる様子(市内湯沢地区・当館蔵)

是非ご来館ください。お待ちしております

— もくじ —

- 都南の遺跡(その4)
- 当館企画展のご案内
平成 27 年度企画展
- 資料は語る④
- 盛岡市所在
指定・登録文化財紹介④
- となんの昔ばなし④

MAP☆ACCESS



○利用案内

開館時間

午前 9 時から
午後 4 時まで

入館料

無 料

休館日

月曜日
(休日に当たるときは、
直近の平日)、年末年始

都南の遺跡（その4）

盛岡市都南歴史民俗資料館 館長 玉川 英喜

盛岡市都南地域の遺跡シリーズ「その4」として、今回は奈良・平安時代の「高櫓A遺跡」と「飯岡林崎遺跡」を紹介します。

高櫓A、飯岡林崎はともに21世紀に入ってから調査が行われた遺跡で、前者は宅地造成に伴い盛岡市教育委員会が、後者は県道盛岡和賀線の改良工事(拡幅)に伴って県埋蔵文化財センターが調査を行っています。

なお、以下の記述にあたっての引用・参考文献は次のとおりです。

- ・岩手県文化振興事業団埋文調査報告書第427集「飯岡林崎Ⅱ遺跡発掘調査報告書(第1・3次調査)」(2004年)
- ・盛岡市教育委員会「高櫓A遺跡 - 『パークスクエア都南中央』宅地造成に伴う緊急発掘調査報告書-」(2009年)

【高櫓A遺跡】

高櫓A遺跡は永井地内に所在し、都南中央公園野球場の東側に隣接する畑地等が宅地造成される際、10,000㎡余りの調査が行われました。

調査の結果、奈良時代末から平安時代初頭にかけての竪穴住居跡34棟をはじめ、古代の円形周溝や土坑などが見つかっています。遺物には土師器坏・甕や甑(こしき)、紡錘車17点、ふいごの羽口、鉄製品の鎌・釣り針各1点、それに土製品の勾玉・丸玉などがあります。

住居跡の大きさはさまざまですが、大型住居の多くに支柱穴や壁をつくる板や杭を建てた痕跡の周溝が見られます。住居はいくつかのグループに分類できますが、各グループには大型住居が含まれ、大型と中・小型がセットになっていたことが想定されています。報告書では「これらの大型住居は血縁集団の家父長クラスの住まいと考えられる」としています。

出土した土器は、時期差があまりない8世紀第4四半期から9世紀第一四半期のものとされています。都南見前地域には、志波城築城以前の奈良時代からの集落跡が百目木遺跡など他にもあり、そうした遺跡とともに高櫓A遺跡はこの時代のこの地域における集落の様相を示す興味深い遺跡といえます。

【飯岡林崎遺跡】

飯岡林崎遺跡は隣接してⅠとⅡがあり、調査が行われたのはⅡです。下飯岡地内に所在し、県道盛岡・和賀線を流通センターから飯岡十文字に向かって北上し、東北自動車道をくぐり抜け鹿妻堰用水路を渡った直後付近からが遺跡の範囲となります。

調査は県道に沿って、その両側それぞれ巾約10m、長さ約300m余りにわたって行われました。その結果、竪穴住居跡37棟、掘立柱建物跡14棟、耕作に関係すると考えられる掘削痕など、また遺物としては土師器や須恵器、紡錘車、土錘、羽口、鍛冶滓、炭化米、動物の骨などが見つかりました。この遺跡は平安時代の集落跡で、出土遺物等から9世紀前半から10世紀初頭のものと考えられています。この時期の集落の在り方を窺い知るうえで興味深いものが多々見つかっています。特に焼失住居、掘削痕、炭化米、動物の骨は当時の生活の様子をさまざま推測させてくれます。

焼失あるいはその可能性のある住居跡は5棟見つかっています。これらの住居跡には建物に使われた材料などが炭化して残り、その状況から当時の住居の上屋構造を推測することができます。床は土間だけでなく、板を敷いて板間にしたり、カヤを敷いたりしたようです。屋根はカヤなどで葺かれ、壁面に直立状態の炭化材が残っていた住居もあることなどから、土留めや壁材として木材が使われたことがわかります。材質は「クリ」「ナラ」「ケヤキ」などが使われたようです。

また、ある住居跡床面から大量の炭化米が見つかっています。DNA分析の結果が報告されていますが、その中で「平安時代の現在の盛岡市郊外に温帯ジャポニカを主体とする稲作があったことを示しており、少

なくともこの時点で水田稲作を行う稲作が成立していたことを示すもの」と考察されています。さらに、いくつかの住居跡からイノシシ、ニホンジカ、ツキノワグマといった獣骨、鳥類の骨、コイ科の尾椎骨などが見つかっており、狩猟の様相も窺い知ることができます。耕作に伴う溝跡の可能性が想定される掘削痕や鍛冶に関連するふいごの羽口、鉄滓なども見つかっており、当時の生業の様子が偲ばれます。

飯岡林崎Ⅱ遺跡は単にここ飯岡に平安時代の集落があったというだけでなく、当時の人々の生活の様子を彷彿とさせる遺跡といえます。



当館企画展のご案内



当館では、平成27年3月14日(土)から4月12日(日)の期間、市民参加展として「鎌田コレクション 第5回旧暦ひなまつり展」を開催いたします。ひなまつり展は今年で5年目を迎え、例年多くの方にご来館いただいております。本展では、市内在住の収集家鎌田隆氏所有の可愛らしい雛人形のほか、花巻市在住の西村須美子氏制作の貝雛、また都南地域でも雛祭りの時期に飾られていた花巻人形などを展示します。鎌田氏所有の雛人形は、陶製や木製、紙のものなどがあり、その豊富な種類から様々な形をした雛人形を楽しむことができます。また、西村氏の貝雛は華やかな模様を纏った小さな貝殻で多数展示されることから来館者からご好評をいただいております。そのほか、都南地域の雛祭りでは花巻人形を飾り、花饅頭や甘酒などを供えて祝っていた風習があることから花巻人形も展示いたします。

訪れる春を楽しんでいただける展示となっておりますので、是非ご来館ください。



平成27年度 企画展

当館では、平成27年度の最初の企画展として平成27年5月2日(土)～6月21日(日)の期間、企画展「飯岡・湯沢地区の遺跡を知る」を開催いたします。当館が所在している湯沢で発掘された縄文時代の湯沢遺跡をはじめ、飯岡沢田遺跡、飯岡林崎Ⅱ遺跡、湯壺経塚など昭和50年代以降に調査が行われた飯岡・湯沢地区の遺跡について紹介します。



【錦絵 子供あそび百ものがたり】

錦絵「子供あそび百ものがたり」(大判二枚続)は、新政府軍と東北を中心とする諸藩とのやりとりを「百物語」という子供の遊びに見立てて風刺した江戸時代の風刺画といわれています。屏風の後から大きな椀をのぞかせている子供たちが東北諸藩、椀に驚いて逃げ回っている手前の子供たちが新政府軍です。東北諸藩に見立てられた子供たちの詞書には、「ばけものはおそろしかろふ」など強気な態度がみられ、手前には強気な子供や驚き泣いている子供がいて、庶民が当時の情勢をどのように見ていたかが分かります。このほかに、当時の風刺画とされる錦絵2点が当館に寄贈されています。

参考：奈倉哲三「絵解き幕末諷刺画と天皇」(2007)、町田市立博物館「幕末の風刺画 戊辰戦争を中心に」(1995)

県指定史跡



大館町遺跡

市街地北西部に位置する縄文時代中期を主体とする遺跡で、昭和31(1956)年に初めて調査が行われました。遺跡からは、多数の竪穴住居跡が見つかっており、南北250m・東西200mにおよぶ大規模なムラが形成されていたことが分かりました。

このほか、食料を貯蔵するための土坑や墓坑、土器・石器も見つかっており、ほかの同時期の集落とくらべても規模の大きい遺跡であることが分かっています。

参考・引用資料：盛岡市教育委員会『もりおかの文化財』(2008)、盛岡市遺跡の学び館「もりおか発掘物語」(2014)

「家臣の悪たくみ・前編」

となんの昔ばなし四十二

今から七百年ほど前、飯岡には飯岡平九郎という殿様が飯岡城に居城し、飯岡の村々を治めていました。飯岡城は、現在の秋葉神社付近にある小さな城でしたが、前方の平地に大堀、その向こうにある大木の松山に囲まれて本丸、二の丸などの館がある自然の要塞となっていました。重臣のうち、岩倉常太郎は羽場に小館を、杉山一学は湯沢に大館、東野文七は向中野館、太田靱負は太田館をつくり飯岡城を守るようになっていました。その一門に、藤島石見がいました。

あるとき石見は、十日市九兵衛という者を自分の館に呼び寄せました。九兵衛が要件を尋ねると、石見は

「特別な要件ではないが、常々心に思っていたことを相談したいと思ってな。わしの親は飯岡城主であったが、わけあって隠居の身となり伯父の平九郎が城主となった。なんとかして亡父の無念を晴らしたいのだが」と話した。この話に乗った九兵衛は、今度、城主の名代として若殿が岩倉常太郎など約三百人を連れて出て行くので、城が手薄となって城主を討つことができると勧めます。石見がその方法を尋ねると、

「殿は高齢で、太田靱負は病氣です。手強い東野文七と杉山一学には毒酒を飲ませればいいが、菊地、谷地、高鼻の三人は忠臣なので面倒です。しかし、だますという方法もあります」と、ひそかに悪巧みを考えていました。

出典：『となんの民話』(都南歴史民俗資料館、一九八八)